



# 丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く～

平成30年9月28日(金) No. 6  
横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

## ガッツポーズ

副校長 青柳 英樹

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開幕までいよいよ2年となったこの夏、日本の各地では記録的な猛暑となる中、日本のスポーツ選手が世界の舞台で活躍しているニュースを耳にしました。記憶に残っているものをいくつか挙げてみます。

8月13日～9月2日にジャカルタで行われたアジア競技大会では、池江璃花子選手が競泳で6つの金メダルと2つの銀メダルを獲得。5つの大会新記録と1つの日本新記録を樹立し、見事MVPに輝きました。日本はこの大会で、水泳をはじめ陸上や柔道など45種目で205個のメダルを獲得しました。8月5日～8月24日にフランスで開催されたサッカーのU-20(20歳以下)女子ワールドカップでは、「ヤングなでしこ」が悲願の初優勝。世界一となりました。8月27日～9月9日に行われた全米オープンテニスでは、大坂なおみ選手が日本人選手初の4大会優勝という快挙を遂げたことは、まだ記憶に新しいです。どの結果も、2年後が楽しみになる、わくわくした思いを抱くものでした。

夏のこれらの大会も、6月のサッカーワールドカップも記憶に残っているのですが、強烈な印象として自分の脳裏に今も焼き付いている一場面が他にあります。それは、2月に開催された平昌オリンピックのスピードスケート、女子パシュートで金メダルに輝いた日本チーム3選手のゴール直後のガッツポーズの姿です。全力でゴールラインを通過し、優勝したと分かった瞬間に両腕を思いきり挙げたガッツポーズ。とてもかっこよく、すがすがしさを感じました。時差のない韓国での大会でしたので、オンタイムで応援していた私も思わず、本気でガッツポーズをしていました。ところが、しばらくして気が付きました。自分は自分のことで、3選手のようなガッツポーズをしたのはいつ以来だろうと。そのように思うと、3選手だけでなく、自分のことでガッツポーズをすることができるチャンスのある参加選手がとてもうらやましく思えました。

13日(土)には本校の第38回運動会が行われます。今年のスローガンは「平成最後全力を出し切って 思い出に残る運動会にしよう」です。どの学年の児童も、リレーの選手や応援団の児童も、運動会本番に向けてとても意欲的に練習に励んでいます。当日はみんな全力を出し切ることでしょ。そして、自分のこと、自分たちのことでたくさんのガッツポーズが、ガッツポーズとまではいなくてもその思いが表れたたくさんの表情が見られることを、うらやましく思いながらも期待しています。

